



まだまだ寒い日が続いています。先月はインフルエンザが大流行し、学校や保育園でも学級閉鎖が次々あったり、病院でも危機感を感じていました。動物のあいだでも、人間のあいだでも、感染症は怖いですね(一一)

今は、長生きな犬や猫がたくさん。14歳以上の子たちもよく目にします。特に注意してあげたいものです。



はじめに

今月は“てんかん”について！！

てんかんとは、^{けいれん}痙攣発作が不定期に、繰り返し起こる、脳の慢性的な病気です。

てんかんは、残念ながら治る病気ではありません。ただし、定期的にお薬を飲み、発作を起こす回数や症状の程度を抑えていけば、普段どおり生活することも可能です。

てんかんの症状や検査の方法、治療に関する注意点、発作が起きてしまった場合の対処法を確認しておきましょう。

1.発作が起きた時には

- あわてて抱き上げるなどせず、おちついて様子を観察しましょう。
- 発作を起こしている間に周りの物にぶつからないように、クッションなどを置いて保護してあげてください。また、噛まれるおそれがあるので、口の中に手などは入れないでください。
- 発作が止まらない場合は、病院につれて来てください。
- 診断の参考になるので、携帯などで動画を撮影してください。



2.分類

	特発性てんかん	症候性てんかん
特徴	○脳に異常は見つからないが発作を繰り返す ○遺伝的な要素が原因と考えられている ○1～5歳に多く見られる	○脳の異常（病気や事故による後遺症など） ○1歳未満、6歳以上に多くみられる
治療方法	てんかんの薬を使って治療する	○発作を起こす原因になっている病気を治療する

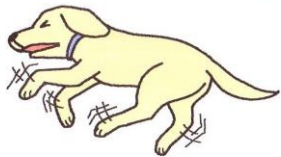


3.症状

全身的な発作



強直発作

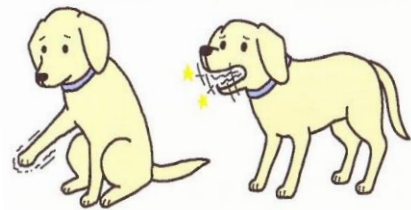


間代発作

代表的な症状は、全身がぴーンと突っ張ってけいれんする強直発作と、全身がガクガクと痙攣する間代発作です。

その他に、口だけをパクパク動かしたり、一本の足だけがピクピクうごくなど、体の一部のみ症状が現れる発作もあります。

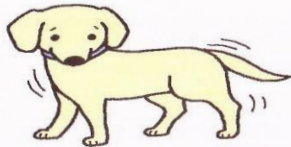
体の一部に現れる部分的な発作



てんかん発作をよく観察すると①発作前症状、②発作、③発作後症状の順に進行し、その後普通の状態に戻ります。各段階の症状はそれぞれ異なりさまざまなものがあります。

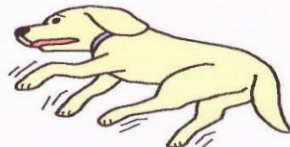
てんかん症状の一例

① 発作前症状



そわそわしたり、徴候はさまざま

② 発作



多くは2分以内

③ 発作後のもうろう状態 (発作後症状)



4.治療

現在のところ、てんかんはお薬による治療がほとんどで、長期的に飲ませるようになります。

てんかんの治療は、お薬を使って発作をコントロールする対処療法であり、てんかんそのものを治すわけではありません。よって、きちんと飲み続けることが大切です。

お薬の量や、投与の時期は獣医師との約束を守ってください。

勝手にやめては絶対にダメ！！



《記入例》

発作日 3月 1日
始まった時間 朝 10:00 (発作の長さ 3分)

発作開始前何をしていました？

おもちゃで遊んでいた

発作を起こりている時の様子

倒れて手足をバタバタ

発作後の様子

よだれをたらし、しばらく放心状態

その後、ヨロヨロ歩く

ほか気付いたこと

5.記録

てんかんを獣医師が正しく判断し、お薬の効果や副作用を確認するには、飼い主さんの日ごろからの観察がとても大切になっていきます。

発作が起きたときはもちろん、発作が起きていない時も、体調について記録するように心がけましょう。

